



JR仁賀保駅 藤野の部屋復元セットの前にて

是枝裕和監督 インタビュー

―映画のロケ地にかほ市を選んだ理由を教えてください。―
原作者である藤本タツキさんの出身地だからです。原作漫画にもかほ市だと思われる風景が出てきますので、映画化にあたっては「できるだけ原作に忠実に描こう」という思いがあり、この地での撮影を決めました。

―初めてにかほ市を訪れたときの印象を教えてください。―

最初に訪れたのは2024年の夏で、その時の印象としては「空港から遠いぞ」と（笑）。空港から遠いというのは撮影場所としては少しハンデになるんですよ。でも、実際にロケハンをして本当に素敵な田んぼ道を見つけたんです。片側には日本海が見えて、切り返すと鳥海山という本当に素晴らしいロケーションだったから、ここでやるしかない、ここで春夏秋冬全て撮ろうと覚悟を決めました。空港からの遠きは通っているうちに慣れました。

―撮影で印象に残っている場所や出来事がありますか？―

やはり一番は、その田んぼ道ですね。あの道を観客の心に残るシーンとして撮り切ることが至上命令でした。あとは象潟海水浴場も思い出深いです。横殴

りの雪が降る中で「ちよつと雪を食べてみて」と言ったら、子ども時代の京本役・岡田六花さんが素直に雪を食べたシーンはとても印象深く残っています。海水浴場では撮影以外でも夏にはキャストとスタッフ皆で一緒にスイカ割りをして、たくさんスイカを食べて、とてもいい夏の思い出になりました。



小出ファームの田んぼ道での実際のロケハンの様子

―あの田んぼ道はどのように見つけたのですか？―

最初市の観光課に、「曲がりくねった田んぼ道」を探してほしいとスタッフを通して依頼していて、それで探し出してくれたのが小出ファームさんのあの田んぼ道でした。実際に行ってみて「ここでやる」と決めました。先日藤本タツキさんとお話したとき、「あの田んぼ道って小出ファームですよね？」

「自分が（漫画の中で）描いたのはあそこかもしれない」って言うていました。びっくりして「そこです！」と答えました。

―撮影中の地域の方々との交流について教えてください。―

地元の元気な子どもたちにエキストラとして出演してもらうなど、地域の方々には作品を大きく支えていただきました。また、長期間滞在していたこともあり、ホテル近くの飲食店や居酒屋には毎日のように通って、中には店主さんとスタッフ、キャスト皆が仲良くなった店もありましたし、名産の牡蠣もたくさん食べました。

―撮影中苦労したエピソードはありますか？―

一番苦労したのは、3月の風の日の撮影です。雪深い冬場は徹底した防寒対策をしていたのですが、3月だったので寒くないと思って油断したんですよね。雪は無いものの氷点下の中で横殴りの雨が吹き付け、機材や雪除けの機械が止まったり、控え用テントにまで雨雪が入り込んだりして。「天気を甘く見てはいけない」と痛感しました。ただ、それ以外は天候にも恵まれ、素晴らしい映像が残せました。

―映像作品のロケ地としてのかほ市ならではの魅力はありますか？―

春夏秋冬、4つの季節を通じて撮影できたことが本当に大きかったです。季節ごとに色も光もまったく異なる表情を見せてくれましたし、カメラを切り返すと鳥海山があつて海もあつて、こんなロケーションは全国探してもそうそうありません。

―にかほ市民の皆さんにメッセージをお願いします。―

1年半の撮影を経て、無事に映画が完成しました。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。市民や行政の皆さんのご協力があったからこそ、おかげさまで自分でも納得できる、とても素敵な作品になったと思います。ありがとうございます。そのお礼の気持ちを直接伝えたくて何度も足を運んでいて、今回も含めにかほ市に通うのは2年になります。こういう現場はめったに無いです。また、訪れる度に顔なじみの方々が増える度に本当に幸せな気持ちになりますね。



是枝裕和

1962年、東京生まれ。早稲田大学卒業後、テレビマンユニオンに参加、主にドキュメンタリー番組の演出を手がける。

1995年「幻の光」で映画監督デビュー。「万引き家族」（2018年）が第71回カンヌ国際映画祭でパルム・ドールを受賞、第91回アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされた。

「怪物」（2023年）は、第76回カンヌ国際映画祭にて脚本賞、クィア・パルム賞を受賞。